

琵琶湖博物館 環境学習センター事業について

1 令和4年度事業結果

コロナ禍によるイベントの自粛などもなくなり、活発的にイベントを実施した。また、自主的な環境学習の推進を目的として、環境学習用具の貸出を開始した。

(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供

自治会や子ども会などの地域団体、学校、NPO、企業、市町などから相談を受け、環境学習・活動に関する活動団体や講師の紹介、研修場所や企画内容等について情報提供を行うほか、ホームページや SNS などでの発信を行い、環境学習活動の推進に努めた。

1) 環境学習に関する相談対応等

相談件数 181 件 教材貸出件数 17 件

(昨年度実績 相談件数 153 件 教材貸出件数 30 件)

2) 環境学習情報のホームページ「エコロシーが」の運用

教えてくれる人登録者 132 人 学習プログラム 181 本 学べる場所 28 か所

3) SNS フォロワー数

Twitter 386 人 Instagram 227 人 Facebook 73 人

4) ブース出展

なし

(2) 環境学習の交流の場づくり

1) 環境・ほっと・カフェ

開催日：令和4年11月12日（土）

場所：琵琶湖博物館

テーマ：「季節のプランクトンを学ぼう」※貸出キット紹介を兼ねて

参加者：14人（大人11名、子ども3名）

2) 環境学習活動者交流会

実施なし

3) こどもエコクラブ事業

- ・淡海こどもエコクラブ活動交流会

開催日：令和4年12月11日（日）

場所：琵琶湖博物館 ホール

参加クラブ数：11クラブ 参加人数：142人

- ・令和5年壁新聞・絵日記コンクール

期間：令和4年12月（木）～令和5年1月10日（火）

場所：琵琶湖博物館 企画展示室

内容：こどもエコクラブに登録するクラブの活動成果の壁新聞・絵日記の展示

その他：平和堂財団より助成を受けて実施

・登録数 65 クラブ メンバー：5334人

・「こどもエコクラブ全国フェスティバル 2023」令和5年3月26日（日）国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催。令和5年壁新聞・絵日記コンクールの壁新聞部門で大賞となった1クラブが参加した。

4) 地域を「知る」環境学習

●もっと知りたいびわ湖のこと「ヨシっていいね」

・「ヨシっていいね! 2」 草津近鉄百貨店 あかりスポット

4月27日（水）～5月3日（祝・火）

パネル設置：（プロローグ、活かす、生態系、保全活動）

移動博物館「生命をはぐくむヨシ帯」、カヤネズミはく製、ヨシ製品各種（雑貨、衣類、コクヨ文具）

アンケート数：（土日祝のみ集計）57人（来場数311人）

ヨシネックレスワークショップ参加者数 56人

・「ヨシっていいね! 3」 日本橋 ここ滋賀

6月28日（火）～7月18日（祝・月）

パネル設置：屋上（プロローグ、活かす、生態系、保全活動）

ヨシ製品展示：2F レストラン横 階段踊り場ウィンドー（ヨシ松明笠部分コラージュ、バッグ、アクセサリ、ヨシペン、ヨシ笛、ヨシストランドボード）

・「ヨシっていいね! 4」 大阪 読売テレビ

7月23日（土）～24日（日）

パネル設置：本社ロビー鳥人間コンテスト2022（プロローグ、活かす、生態系、保全活動）

移動博物館「生命をはぐくむヨシ帯」、カヤネズミはく製、ヨシ製品各種（雑貨、衣類、コクヨ文具）

・「ヨシっていいね! 5」 日本橋 ここ滋賀 ヨシビーズを使ったネックレスづくり

8月2日～8月3日

アンケート数：57人

ヨシネックレスワークショップ参加者数：59人（予約80名のうち当日参加59名）

・「ヨシっていいね! 6」 大阪 読売テレビ

8月27日（土）～28日（日）

パネル設置：本社ロビー24時間テレビ（プロローグ、活かす、生態系、保全活動）
移動博物館「生命をはぐくむヨシ帯、移動してきた湖 琵琶湖、歯形の正体はだれ？」
ヨシ製品各種（雑貨、衣類、コクヨ文具）

- ・「ヨシっていいね! 7」 東京 ITOCHU SDGs STUDIO 11月19日（土）～20日（日）
ヨシのヒンメリ、パネル設置：（プロローグ、ヨシの美、生態系、保全活動）
ヨシのヒンメリ作りワークショップ参加者数 42人
- ・「ヨシっていいね! 8」 琵琶湖博物館アトリウム 3月14日（火）～3月28日（火）
パネル設置：（プロローグ、ヨシの美、生態系、保全活動、資材としての取組紹介）
ヨシ製品各種（雑貨、コクヨ文具、よし笛、菓子）
よし笛コンサート（3月21日（火・祝）参加者数177人・25（土）参加者数135人）

5) 環境学習への誘い事業

●貸出キットの作成

- ・「プランクトンネットを使って季節のプランクトンを観察しよう！」（監修：主任学芸員 鈴木隆二）
* 環境・ほっと・カフェにて使用
- ・「季節の植物でアロマウォーターを作ろう！」（監修：主任技師 美濃部諭子 協力：はしかけ「緑の葉箱」）
- ・「チョウの採集と標本づくり」（監修：総括学芸員 八尋克郎）

・「やってみよう！環境学習！」 自然観察の用具と使い方

草津近鉄百貨店 あかりスポット 2月22日（水）～2月28日（火）

貸出備品・パネル設置：（3種類の貸出セット、DVD、漁網・ライフジャケット・生態観察ケース）

植物の実演蒸留・アロマウォーター作り

よし笛コンサート（2月23日（木・祝）・26日（日）参加者数131人（両日）

ヒンメリ作りのワークショップ（2月23日（木・祝）・25日（土）・26日（日）参加者数74人

・びわこマラソン 応援イベント

烏丸半島 芝生広場WELCOMEフェスタ 3月12日（日）

貸出備品・パネル設置：（アロマウォーターセット、DVD、漁網・ライフジャケット）

各種チラシと「季節の植物でアロマウォーターを作ろう！」のアロマスプレーを配布（104人）

6) その他

- ・令和5年1月31日（火）～2月26日（日） 琵琶湖博物館ギャラリー展示「トンボ100

大作戦 ～滋賀のトンボを救え～」 -生物多様性びわ湖ネットワーク- 展示活動支援
琵琶湖博物館アトリウムにおいて、企業連携による生物保全活動の成果発表展示

2 令和5年度事業（予定）

ホームページ、SNS での情報発信の強化、初心者を対象とした環境学習への誘い事業の強化、環境学習指導者「教えてくれる人」と地域の人々、団体の交流の機会の創出などを予定。

(1) 環境学習に関する相談対応・情報提供

個人をはじめ、自治会や子ども会などの地域団体、学校、NPO、企業、市町などから相談を受け、環境学習・活動に関する活動団体や講師の紹介、研修場所や企画内容等について情報提供を行う。ほか、ホームページや SNS などにより発信を行い、環境学習活動の推進に努める。今年度は貸出用具に関する問い合わせが多い（用具の使い方やプランクトンの種類など）

1) 環境学習に関する相談対応等

相談件数 107 件 教材貸出件数 42 件（2023 年 8 月 10 日現在）

（昨年度実績 相談件数 181 件 教材貸出件数 17 件）

2) 環境学習情報のホームページ「エコロシーが」の運用

教えてくれる人登録者 133 人 学習プログラム 186 本 学べる場所 29 か所（2023 年 8 月 10 日現在）

3) SNS フォロワー数

X(Twitter) 399 人 Instagram 257 人 Facebook 78 人（2023 年 8 月 10 日現在）

(2) 環境学習の交流の場づくり

1) 環境・ほっと・カフェ

令和5年度から令和6年度にかけて、「教えてくれる人」と地域の団体・個人が交流できるような機会を設けることを計画している。

2) 環境学習活動者交流会

新型コロナウイルス感染症の蔓延前は、学生同士の交流会や企業同士の交流会を実施していた。今年度からは、「びわ博フェス」をより大規模なものにし、「はしかけ」や地域の人々、学生や企業が交流できる場とすることを計画している。

3) こどもエコクラブ事業

・淡海こどもエコクラブ活動交流会

期日：12 月 3 日（日） 場所：琵琶湖博物館企画展示室、ホール

4) 環境学習への誘い事業

・令和5年度琵琶湖博物館ギャラリー展「プッカプカ美小生物展 ミクロでアートな生きものたち」

会期：2023年5月5日（金）～6月11日（日）※開館日数 33日

微小生物とアートがコラボレーションした展示を実施した。展示の最後で貸出事業紹介の展示も行った。

開催期間の来館者数 41,384人（33日間）

※展示室でのカウントはしてないため、博物館への来館者数
関連イベントを5件実施

・「夏休み！自由研究応援展 自然と親しむ貸し出しキットを紹介します」

場所：近鉄百貨店草津店 アカリスポット

会期：2023年7月12日（水）～7月23日（日）

来場者数：約180人（16、23日のみ集計、ワークショップ参加者を含む）

貸出用具の紹介展示、琵琶湖博物館の「はしかけ制度」と「はしかけ」グループの紹介（一部）を行った。また、16日と23日にはワークショップを実施した（計4回）。

○ワークショップ「顕微鏡でプランクトンを見よう」

顕微鏡の使用方法的な解説と琵琶湖のプランクトンの観察を行った。

5) その他

・琵琶湖博物館ギャラリー展示「トンボ 100 大作戦 ～滋賀のトンボを救え～」

生物多様性びわ湖ネットワーク 展示活動支援 令和6年1月30日（火）～2月25日（日）予定